

島の持続可能な観光のためにできること

式根島の観光における課題

今回、自転車で式根島を散策し、観光における課題を2つ発見した。一つ目は、式根島全体の観光スポットを除く道路や街並みに関して、景観に大きな変化がないことである。ほとんどの道において道路があり、左右が緑で囲まれているか、商店や施設、学校などがあるというだけで、式根島であるからこそその風景などは感じられなかった。自転車を走らせていても神引展望台や、地鉤温泉にたどり着くまでは代わり映えのない風景であり、全身で自然を感じられる一方で、寂しさを感じた。目的地を定めて向かっている中でも、案内板が少なく、google map 頼りに進んでいきつつも不安になる場面が何度かあった。2つ目は観光客の目的とするポイントが明確でないことである。1つ目の課題にも関連するが、観光客として訪れる人々が日頃生活している場所として考えやすい都心と比較した場合、自然豊かであることの他に、式根島の特徴として挙げられるものが少ないという印象を持った。名産として、たたき丸や明日葉、天草などがあると観光協会の方から伺った一方で、それらを名物として大きく取り扱う商店も少なかった。加えて、式根島の旅のしおりに記載があったり、式根島の名物としてインターネットで検索して出てきたものが、お昼前に訪れた時点で売り切れていたり、式根島にとってのピーク時期と外れていることを考慮しても、販売数が少なく、住民の方が観光客向けとして重要視していないように感じた。

式根島の課題解決へ向けた提案

上記の課題解決と持続可能な観光へ向けて、式根島の道路や空き地にアート作品を取り入れることでこの課題を解決できるのではないかと考えた。現在、式根島には役所の跡地を利用し海外アーティストの現代アート作品を展示している施設もあり、アートを利用することは式根島の方々にも受け入れられやすいのではないかと考えた。また式根島のフォトスポットとして式根島の多くの方々が写真を撮っていた「ようこそ式根島へ」の看板も、まもなく工事が入ってしまうということもあり、ますます観光地らしさが減ってしまうように感じた。その為、工事している間に「ようこそ式根島へ」の代打としてイラストを用いたフォトスポットを作ることと同時に、道路に少しずつ観光地へのガイドラインを作ること風景の変化を楽しめるというポイントを作ることができると観光客が観光スポットまでスムーズに移動できるのではないかと考えた。また、島に猫が多いことより、猫を追いかけて住宅の庭などに入り込んでしまうことも問題視されていた為、駐輪場、駐車場、空き地、民家との区別をつけるためにも島の空きスペースにイラストを散りばめることで、民家である

雰囲気観光客に掴んでもらえると入り込んでしまうことも防げるのではないかと考えた。

式根島の持続可能な観光のためにできること

島ならではの自然と海に囲まれた式根島が、もっと式根島が選ばれるように、観光客が式根島にこだわる理由を作りたいと考えた。その上で、伝統的な街並みを持つ京都や金沢と異なり、自然に溢れた島であるからこそ新たな景観を作り出せるのではないかと考え上記の提案に繋がった。他にも、ウミガメや猫など、都心部にいたら中々機会のない動物を近くで見えて癒されることができたり、近年減りつつある野良猫と触れ合うことができたりと、観光においてもっと式根島の魅力を発信できるポイントがたくさんあると今回のフィールドツアーで感じる事ができた。